

平成25年第1回邑楽町議会定例会議事日程第4号

平成25年3月18日（月曜日） 午前10時開議

邑楽町議会議場

- 第 1 議案第24号 平成25年度邑楽町一般会計予算
- 第 2 議案第25号 平成25年度邑楽町国民健康保険特別会計予算
- 第 3 議案第26号 平成25年度邑楽町後期高齢者医療特別会計予算
- 第 4 議案第27号 平成25年度邑楽町介護保険特別会計予算
- 第 5 議案第28号 平成25年度邑楽町下水道事業特別会計予算
- 第 6 議案第29号 平成25年度邑楽町学校給食事業特別会計予算
- 第 7 議案第30号 平成25年度邑楽町水道事業会計予算

○出席議員（13名）

2番	原	義裕	議員	3番	松村	潤	議員
5番	神谷	長平	議員	6番	半田	晴	議員
7番	坂井	孝次	議員	8番	大野	貞夫	議員
9番	田部井	健二	議員	10番	小沢	泰治	議員
11番	岩崎	律夫	議員	12番	小島	幸典	議員
13番	立沢	稔夫	議員	14番	本間	恵治	議員
15番	細谷	博之	議員				

○欠席議員（1名）

1番	塩井	早苗	議員
----	----	----	----

---

○地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名

金子	正一	町長
堀井	隆	副町長
大竹	喜代子	教育長
飯塚	勝一	総務課長
小倉	章利	企画課長
諸井	政行	税務課長
吉田	紳二	住民課長
相場	利夫	生活環境課長
小島	敏晴	保険年金課長
河内	登	福祉課長
大舩	一	産業振興課長 兼農業委員会 事務局長
小島	靖	都市建設課長
半田	実	会計管理者 兼会計課長
茂木	一夫	水道課長
神山	均	学校教育課長
半田	康幸	生涯学習課長

---

○職務のため議場に参加した者の職氏名

田	口	茂	雄	事	務	局	長
田	部	井	春	彦	書		記

---

◎開議の宣告

○立沢稔夫議長 これより本日の会議を開きます。

議事日程は、配付のとおりであります。

[午前10時00分 開議]

---

◎発言の申し出

○立沢稔夫議長 町長から発言の申し出がありましたので、これを許可します。

金子町長。

[金子正一町長登壇]

○金子正一町長 おわびを申し上げたいと思います。

平成25年度邑楽町水道事業会計予算の一部に誤りがあり、3月15日に訂正をさせていただきました。当初予算上程後の訂正となりまして、大変申しわけございませんでした。おわび申し上げたいと思います。

---

◎日程第1 議案第24号 平成25年度邑楽町一般会計予算

○立沢稔夫議長 日程第1、議案第24号 平成25年度邑楽町一般会計予算を議題とします。

これより逐条質疑に入ります。

まず、一般会計の歳入全款について質疑を行います。予算書では51ページまでです。

本間恵治議員。

○14番 本間恵治議員 43ページ、財政調整基金の繰入金9,000万円が計上されています。そしてまた、その下に減債基金の繰入金8,000万円、そして公共施設等整備基金繰入金が2億4,379万9,000円ですか、計上されています。私は当初全員協議会において、この財政調整基金については、急を要するときに議会の議決を得て取り崩すのが本来のあり方だということで申し上げましたけれども、町長初め執行側はこれをそのまま予算計上してここへ出してきました。下の基金については、目的があって取り崩してあることですから、私は何も異存ありませんけれども、この財政調整基金9,000万円については、なぜ当初予算で取り崩すのか、意図が私にはわかりません。何のための目的があって、この財政調整基金を取り崩すのか、はっきり明白な回答をお願いしたいと思います。そしてまた、さきの補正予算では、5,000万円先の予算を実際には町債の7億6,930万円の補正前の歳入の予算を5,130万円ですか、戻していますね。このような財政事情の中で、補正予算については、一般の経費をできるだけ少なくさせたと、カットさせたというふうな中で、細かい金額がみんな三角になって載せてきましたけれども、実際にはそれができるといえるのは、裏を返せば予算を当初から余計にとっていた、そのお金を返したという受けとめ方もあるわけですね。本来ぎりぎりの

予算計上した中で、精いっぱい少ない予算で最大の効果を上げるという意図からすれば、私はこの9,000万、ゼロにして予算計上していただきたかった。過去にもこの財政調整基金の取り崩しについては、議会で否決され、訂正させられたこともありますね。今、金子町長は多数決なら通るからということで、私が言っても、「寝耳に水」というふうな対応の中で、そのまま出してきましたけれども、これについては、ではこの25年度最終的に不用額をどのぐらい見込んでいるのか、それもお聞きしたいと思います。

私は、この9,000万円入れなくても予算は組めたのではないかというふうに思います。最初から水増し予算を組めば組むほどお金は余ります。それを基金に繰り入れて基金がふえたというふうな、事業をやらなくて、基金をふやしているような私は傾向にあるのが今の町長を初め執行側の予算の組み方だというふうにも思っています。経済情勢が緊迫した中で、地方交付税や県からの補助金、どんどん少なくなる中で、町の財政を考えたときに、やはりもっともっと緊縮財政を組まなければ、私は町民にとって大変なことになるのではないかなというふうに思います。過去には3年間、当初予算から比べれば12%以上の予算をふやした組み方で対応してまいりました。今年度の25年度の予算は2.5%減らした。そうすると3年前の予算から比べれば、まだまだ10%ほど予算からすれば多いのです。そういう中で、東北の震災復興のために税金を課したり、いろんな形で国も苦肉の策で対応してやってきています。邑楽町も決してそれに屈することなく、私は少ない予算の中で最大の効果を出す、そういう部分では少なくとも財政調整基金にだけは手をかけないでやっていただきたかったというふうに思いますが、町長の見解をお伺いしたいと思います。

○立沢稔夫議長 飯塚総務課長。

○飯塚勝一総務課長 財政主管課としてお答えいたします。

財政主管課としては、毎年邑楽町の当初予算の編成ということで苦慮しているわけですが、編成は、前年度の11月上旬から始めて、数字が固まるのが1月下旬となっております。財政当局としては、歳入面では各項目、できるだけ可能な限り、その時点でわかる可能な限り多く見積もっていただき、それで歳出は反対にできるだけ絞って見積もっていただいているところでございます。歳出についても、本当に細かい部分までご協力をいただいているところでございます。

そして、その時期としては、結果的には歳入と歳出の差額が出てしまいますので、その差額の財源不足を基金の繰入金ということでお願いして、予算を歳入歳出予算同額ということで組ませていただいております。年度の途中、歳入歳出がはっきり実数に近い数字が出た時点で補正という作業を行っているのですが、その補正の中でできる限り繰り入れた基金を戻していくという作業を努力していきたいと思っております。財政主管課としても今後も健全財政に努めてまいりますので、そのところをご理解いただきたいと思います。

以上です。

○立沢稔夫議長 金子町長。

○金子正一町長 お答えをいたします。

予算の計上については、それぞれの担当する課、事業の執行上、遂行上必要額を見積もって計上させていただいたということでもありますので、その点についてはぜひご理解をいただきたいと思っております。

それから、最終的にその不用額がどれくらいになるかというふうなお尋ねですけれども、この分についてはそのような必要額を見積もったという経緯の中から、現時点ではその不用額がどれくらいあるかということについては、これはつかめないということでもあります。結果として不用額が出た場合には、そのような形になるわけでもありまして、現時点ではその不用額についてどれくらいになるかということについてはお答えを控えさせていただきたいと思っております。

○立沢稔夫議長 本間恵治議員。

○14番 本間恵治議員 不用額は現在の時点では言えない。財政調整基金を繰り入れた中で、補正でできるだけそれを返していくと、そういうふうな今の答弁ですけれども、それだったら財政調整基金を取り崩さないでゼロにして、緊縮財政を組んだ中で精いっぱいやって、足らなくなったら財政調整基金を取り崩すのですよ。普通そうでしょう。最初から水増しをして予算を組んで、不用額はただいまの時点では言えない。それでは今まで予算を各課でどういってお金を使うというのを積み上げてきて予算を組んでいるわけでしょう。それに適当に幅を持たせているだけではないですか。

では、一步踏み込めばですよ、今の発言の中では、財政調整基金を少しずつでも補正で返していくということは、ではもう財政調整基金は25年度はこれ以上は取り崩さない。そのための25年度の予算だというふうな受けとめてもいいのでしょうか。答弁をお願いします。

○立沢稔夫議長 金子町長。

○金子正一町長 最終的に不用額が現時点では申し上げられないということは、歳入歳出74億6,500万円ということの予算組みになっているわけでありまして、その中に財調からの崩し9,000万円ということも含まれているわけでもあります。したがって、先ほど申し上げましたけれども、事業執行上やはり必要な予算として見積もりをさせていただいたことがありますので、そのようにご理解をいただきたいと思っております。

それから、補正の段階になって、この財調の取り崩しがあるのかないのかということのお尋ねですけれども、これについては、その事業が新たに、あるいは事業を進めていかなければならない、そして歳入不足を生じるということになれば、これは財調の取り崩しということで、また議員の皆さんにご協議をいただくこともあるというふうにご理解いただきたいと思っております。

○立沢稔夫議長 本間恵治議員。

○14番 本間恵治議員 財政調整基金を取り崩すのに、当初予算でこれだけ足りないから財政調整基金を取り崩して予算組みをしたという総務課長の答弁です。それを受けて町長は今話しているのですね。この財政調整基金を前年度もやはり9,000万円だけれども、同じ金額取り崩しているのです

よ。簡単な考えで同じ金額ぐらいなら議会通るだろうと、そういうふうな考えもあるのではないですか。前の議会だったら通らないときもありましたよね。通させなかったですよ、議会で。そういうときもあったでしょう。そういうことを今までやってきた中で念頭に置いていけば、私はあなたが町長であるならば、できるだけこれをゼロにした中で予算を当初から組むべきなのですよ。過去にそういう議会で財政調整基金というのは急を要するときにだけ使うのだと、条例の中にも書いてありますよ。一番最後に議会が認めるものという逃げがあるだけで、本来は緊急を要するときにだけ使う、それが財政調整基金なのですよ。だから、少しずつ積み立てて、過去に長柄小学校が火事になったり、そういうふうにしたときも、その財政調整基金があったから、学校が建て替えられたというふうなことも私は先輩たちからも聞いていますし、それをないがしろにして、あるのだから取り崩せばいいという安易な考えは私は決して持つべきではないというふうに今も思っています。ある意味ではですよ、水増しして執行予算を組めば、必ず不用額が出てきますよ。余りますよ。逆にでは私がそういう発言をしたから、できるだけ予算を全部目いっぱいことしはとっただけ使えばいいやというふうになればですよ、今度は少ない予算で最大の効果どころか、みんな使えばいいのだと。そういうふうになったら各課の規律なんていうのはなくなってしまうのでしょうか。口ではいいこと言えるかもしれないけれども、最初から緊縮財政を組んでどうしても足りないというのであれば議会へ上程して、財政調整基金取り崩すというのだったら、私はそのために町民のために有効に使うということであればいいと思いますよ。結果的に合計したら足らなくなったから、これ取り崩せばいいのだという、そういう考えのもとに予算組んでいるのではないですか。9,000万円ぐらい私は削れないことはないと思いますよ、総予算から比べれば。まして補正で5,000万円先のお金を返しているのではないですか、取り崩しを。そのほかに基金だって積み立てているでしょう。そういうお金があるのだったら、私は少ない予算の中で精いっぱい最大の効果を出すように、最初当初予算を組めば、職員の方々だって、一生懸命その予算の中で私は精いっぱいやると思いますよ。でも、来年度の予算はちょっと容易ではないから少しでは多目に出しておこうというふうにしてもわからないでしょう。どこを切るかもわからないのではないですか、町長は。だから、手をつけられないのではないですか、では。予算がわからないのではないのですか、あなたには。基金条例をよく読んでみてください。一番最後に議会で認めるものと書いてありますけれども、その前は本当に緊急を要するときにだけ議会で認めていただいて使うというふうに書いてありますよ、2つの項目は。それを念頭に置いて予算を組むのであれば、私は決してこの財政調整基金9,000万円を取り崩す必要はないと思いますが、いま一度見解をお聞きしたいと思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

○金子正一町長 決して計上したものを全て使用すればいいというような安易な考え方で事務事業を執行しているつもりはありません。それぞれの事業を執行する課では、まさに議員が言われますように、費用対効果を十分に考えた上で、住民の皆さんへのサービスを行っているということであり

ます。したがって、この財政調整基金の取り崩しについて、これは9,000万円ということでありま  
すけれども、年によってはこの金額はマイナス、もっと少なくなることもあるでしょうし、事業に  
よってはふえていくということもあるわけでもありますから、ある面では財政調整基金の使用とい  
うことについては、その年度の事業容量、事業の進め方によって私は増減があるということは、こ  
れはやむを得ない。そのための財政調整基金であるというふうに考えております。だからといって  
安易にやみくもに財政調整基金を取り崩して、その事業を進めていくという考え方はありません。  
それぞれの担当する課では、十分みずからの課の仕事として費用対効果を上げるべく努力をしてい  
るということでもありますので、ぜひ議員のご質問にお答えになったかどうかわかりませんが、  
ご理解をいただきたいと、このように思います。

○立沢稔夫議長 本間恵治議員、4問目ですので、まとめでお願いします。

○14番 本間恵治議員 それでは、さきに行われた補正予算ですよ、積立金、歳出の中で。公共施  
設等整備基金1億8,000万円、それから基金積立金、財政調整基金に2億4,200万円、減債基金に  
2,477万1,000円、これだけ回しているではないですか。こんなに余っているではないですか。ある  
意味では不用額でしょう。余ったからこちらに回しているのに入れていっているのでしょうか。こんなに前  
年度の予算からすれば余裕があるということでしょう、予算の組み方が。これだけ余すのには、大  
したものですよ。全部足すと幾らですか。5億円近くなるのでしょうか。その中の2.5%、25年度減  
らしたのであれば、2.5%減らしても、同じことやったのなら、5億円からの2.5%減った残りの額  
ぐらい残りそうなものではないですか、25年度の予算は。そういう見方だって出てくるでしょう。  
不用額がいっぱいふえますよ、普通にやれば。まるっきり予算の組み方を前の年度から調べて、そ  
れをもとに25年度の予算を精査して組むわけでしょう。全然精査なんかしていないではないですか。  
しかもあなたが作る中央公民館だってそうでしょう。基金を積み立てたほうがいいと議会で言っ  
ているのにもかかわらず、基金の取り崩しと借金でつくるのだと。こんなに余っているのなら、幾  
らだって基金に回せるではないですか。そういう予算組みをしている25年度ですよ。もう少し不用  
額がどのぐらいなのかわかりそうなものではないですか。今はわからない。最終的には25年度の最  
後にわかるわけですから、そのときにまた話をしましょう。

終わります。

○立沢稔夫議長 ほかに質疑ありませんか。

神谷長平議員。

○5番 神谷長平議員 関連でございませうけれども、基金条例の処分について、当然先ほども話が出  
ましたけれども、3項目あるわけですが、まず第1項目につきましては、経済事情の変動により、  
財源が著しく不足した場合において、当該不足額を埋めるために財源に充てると、これらについて  
は議会の議決を得るものということですが、第2点として、地方債の繰り上げ償還に充てると  
きと、3点目として、災害の発生に伴う緊急対策費等を充てると、これが財政調整基金の条例で



定めた用途の内訳かなと思います。

今年度の予算の状況を見ましても、ことし3月に補正を組まれまして、最終的な補正予算額ですが、38億円で組まれているわけです。今年度の当初予算が、これはあくまでも町税の関係だけで触れます。全体で触れると長くなってしまいますので。25年度の町税の歳入を見ているのが34億円で見ているわけですね。これを差し引きますと約3億3,000万円ぐらいもう結果的に金が残るような状況が見られるというような状況があります。それに伴って、過年度も見てみましたが、23年と25年度で比較しますと、実質上3億3,000万円やはり残っているわけですね。予算に比べて歳入額がふえていると。それから、22年度におきましても、約3億円ぐらいの金が逆に当初見積もった予算よりも実質上財源が多く入っているというような状況があります。

それと、22年度の不用額、これらにつきましては2億2,400万円の不用額が出ています。23年度については2億4,700万円の不用額が出ています。そうすると今従来の税収の見方から見れば、当然24年度についても約2億からの不用額は出るのではなかろうかなと、そのような推測はできますけれども、もう少しこの財政調整基金のあり方を検討していただいて、事務的に進められるべきであるのではなかろうかなと。なぜ今回この9,000万円の財調を取り崩すかと、そうであれば25年度の予定も決算から比較していけば、3億円からの状況が入るわけですから、2億1,000万円のそれだつて残るわけですから、9,000万円取り崩さなくても。財政の収入状況は不足するなんてことはあり得ないと思うのですよ。その辺について町長にお尋ねしたいと思います。

○立沢稔夫議長 飯塚総務課長。

○飯塚勝一総務課長 お答えいたします。

決算の状況、前年度の補正の状況から見ると、議員のお話のとおりでございます。財政主管課としては、先ほどお話したように、当初予算を組む時点では、できるだけ町税にかかわらず、いろんな収入、その時点で把握できる状況を挙げていただいております。結果的には税金だと課税決定が計算ができたときとか、確定というか、金額わかるわけなのですけれども、その時期のずれ、うちのほうが所管している交付税等は、当初予算組むときにできるだけ予測するのですが、いろんな計算とか、それではつきりするのがちょっと年度途中、また最終の3月になってしまうということもありますので、なかなか当初に正確な金額が出ないということをご理解いただきたいと思います。

先ほどもお話ししましたけれども、途中余裕ができればその基金、また戻すというような形をやりながら、貴重な基金をできるだけ減らさないように今後も注意して、財政運営に努めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○立沢稔夫議長 金子町長。

○金子正一町長 平成24年度よりも平成25年度のほうが税収が多いので、取り崩しをしなくても済むのではないかとこのふうな部分もあったかと思うのですけれども、これについては、毎年度その事業の計画が前年と違ってまた今年度は違う事業を行いますというような事業の執行内容が毎年変わ

る部分もあるわけですから、たまたまその数字だけの比較でいけば、歳入が前年よりふえた、プラス9,000万円がふえたということを考え、それだけを見れば、やはり事業量が前年に比較してふえていると、住民サービスを充実をさせていくというふうにご理解をいただければありがたいと思うわけでもあります。

○立沢稔夫議長 神谷長平議員。

○5番 神谷長平議員 事業のせいにしないでください。実質上、税収の見方、地方税の見方しますと、前年度とほぼ同額に計上されているのですよね。そうすると税の見方というのは、もう地方交付税については、町税だとか、たばこ税だとか、それらが算定されたその基準額にパーセント掛けて計算されている数字ですから、当然その数字が地方交付税が前年度と同じで計算されているということになれば、町民税の税収の方法も同じ額で歳入されてくるべきではないのですか。そうすると初めからもう既にそういう状況の予算組みをしていると。私なんかも先日の全員協議会の中でこれについては事務的にもう少し改善する状況があるのではなかろうかと発言をさせていただきました。それらは完全聞いていただけません。ですから、私は相まってこれできょうお話をさせてもらっているわけですが、実際私もあそこで発言したときは、この数字は自分なりにつかんでいました。ですから、もう少し事務的に改善できるものであれば、私は本会議でこんなこと言いたくはありません。素直に「はい」と言いたいですよ。ですから、もう少し改善できる点があれば、そういう全員協議会の機会で意見が出たのですから、もう少し精査した中で、やっぱりうまく事務を運営していくように遂行してもらわなければ非常に困るかなと。町長は首をかしげているような状況では困りますよ。数字的にはもう本当にさくい話、事業があつて、数字がわからないと言うけれども、当然事業というのは、この財政状況というのは、もう10年ぐらいの推測されているでしょう。状況はつかめているでしょう。ここで1年1年で物を考えるような恐らく行政運営はしていないと思いますよ。そんな過去のやはり財政を預かっている職員の方も立派な方がいて、その辺については当然そういう予算執行をしていたと思います。ですから、この段階でその年によって事業が違うからって、事業が違えば違った年の予算の組み方すればいいのですから、別にことしの場合だって、極端に新しく入ったのは、幼稚園だけではないですか。幼稚園と児童館ではないですか。そんなに極端な数字の動きというのはあり得ない話ですから、もう少し慎重に、ですからこの予算組むときも、これもまた来年こういう状況で財調の取り崩しが当初から上がってくるようだと非常に困ると思いますので、その辺の考え方をお聞きしたいと思います。町長にお願いします。

○立沢稔夫議長 金子町長。

○金子正一町長 税と地方交付税の話も絡んでいるわけですが、当然地方交付税については、町が行う仕事の量、需要額と歳入の税の収入ということの75%部分について地方交付税として算入されるということになるわけですね。その今の時点で昨年より比較して、税収が多いからということで地方交付税を見込むというのはおかしいのではないかというようなことにもつながるのかなと

と思いますが、これは地方交付税は議員もご承知かと思うのですけれども、基準財政需要額、必要額、その収入額にそれを引いて、それで75%分が交付される……

〔「私が聞いているのは、最終的に聞いているのは、来年もこういう予算の組み方するかしないかを聞きたいのですよ」と呼ぶ者あり〕

○金子正一町長 それは、先ほど本間議員にもお答えしましたけれども、その仕事の増減ということによって、その財政調整基金の取崩額は、これは増減があるということは、これはそうでないと予算そのものが組み込みができない。予算が積算できないということにもなりますので、そういうふうにお答えをしたいと思います。

○立沢稔夫議長 神谷長平議員。

○5番 神谷長平議員 私がお願いしたかったのは、予算執行についても、ここの基金条例というのがあります。これらに基づいた中で執行していただきたいと、そういう形でお話をしたいのです。またこれが来年度こういう形で新年度に上がってくると大変なことになるかなと、ことしの場合については、私は私なりの考え方で対応させてもらいたいと思いますけれども、そういうことでひとつお願いをしたいと思います。

以上で終わります。

○立沢稔夫議長 ほかに質疑ございませんか。

小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 今、議員の方々から財政調整基金についてお話ありました。これは事業執行する考えのもと、それが原点ですね。まず、町長がもともとの事業執行に当たって、邑楽町の最高権力者です。そういう中で一部の執行側の思惑、そういうものとの考え方、そしてその町長の執行に対する町民との目的の置きどころですか、その辺がやはり乖離しているのかと思います。なぜならば、今のような平常なときにあって、財調の資金を9,000万円投入する。それを入れなくても、入れないで、しっかりと町政運営ができる、そういうのをやるのが町長の今の仕事だと思うのですね。大変な時期は、東北の大震災の関係であれば、向こうは向こうで大変なものがありますがけれども、逆にこの地域においては、そのおかげで経済効果もある一定の範囲であるわけなのです。そういうことを考えたならば、こういうときにこれを使って予算組みを編成をする、それ自体が間違っていると思うのですね。町長の思惑、町長の思い、それを最重点に置いて各部署、課に町長のほうから指示をしているから、こういう結果になるのだと思います。ぜひ町長自身の物の考え方を改めていただければと思うのですが、いかがですか、町長。

○立沢稔夫議長 金子町長。

○金子正一町長 決して事業執行するのに、一部の方というふうなお話がありましたが、そういう考え方で執行しているつもりもありませんし、予算編成も全体のバランスを考えて行っているという

ふうにご理解をお願いしたいと思います。

また、その町長は権力者だからという話がありましたけれども、それは権限はありますけれども、その権力を行使して、事業を執行しているということについては、私は皆様のご意見を伺って、町民の皆さんへの仕事をさせていただいているつもりですから、そのような考え方でこれからも進んでいきたいというふうに思います。それは一部はそういうこともあるかもしれませんが、そのときにはまた議員の皆さんとも相談をさせていただいて、考えていきたいと、こんなふうに思います。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 町長はそのようにおっしゃいますけれども、後段で出てきます事業、新規の事業について、この辺についてやはり町民のコンセンサスをこれは得ていない、そういうものを町長みずから先に立って実行しようとしているからこういう問題が起きるのです。こういう事業をやるのだということでコンセンサスが得られていれば、財調を使うのも、それはみんな異議ないと思いますよ。その辺の手法が間違っているから、段取りが間違っているから、こういう財調を使わなければならない、そのような邑楽町の財政、事業、状況になるのだと思いますけれども、いかがですか。

○立沢稔夫議長 金子町長。

○金子正一町長 何とお答えをしたらよろしいのか。議員の皆さんのところへも23年度の決算審査参考資料ということでお手元に9月の決算のときにお示しをしているかと思っておりますけれども、そういうこれは平成14年度から出されていますけれども、私自身は何が何でも財調を取り崩して予算を計上するという考え方は、これは何が何でもという考え方ではありません。ただ、先ほど前の方のご質問にもお答えしましたが、その事業を執行していく上で、やはりその財政調整基金が必要ということを考えて、最小限の中で繰り入れをさせていただいているという予算書の組み立てでもありますから、これは他の市町村との比較をしてもしようがないのですけれども、ぜひご理解をいただくきりないのですけれども、この決算の参考資料ですとか、今までの一般会計予算に対して財政調整基金が各年度でどれぐらい取り崩しをされているのかということも参考にさせていただければというふうに思います。

先ほど申しわけありません。この参考資料というのは監査委員だけに配付のようでありますので、議員の皆さんのお手元にと申し上げましたが、それは取り消しをさせていただきたいと思っております。

後段の各年度の一般会計の予算から、財政調整基金をこの年度はどれぐらい取り崩したという表もありますので、ぜひそれらも参考にさせていただいて、その年度の事業がどのように行われてきたということも含めていろいろ研究をいただければなおありがたいと思います。

いずれにいたしましても、その予算の組み立ての中で、先ほどお答えしたようなことでご理解をいただきたいと、このように思います。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 事業執行に当たって、庁内で決めればよいというものではないのであって、後で出てきますけれども、前日に話が議会に出て、それでどうのこうの、それはやはり無理をした事業執行をしているからなのです。それをしっかり考えてやっていけば、この財調の取り崩しだつてしなくても済む、そういうことになるのです。なぜかという、景気は上向いているわけですから、町長のもともとのスタンスが、取り組み方が間違っているのだと思います。議員はきっとコンセンサス、同意、合意が得られているならば、事業執行に当たってこういうことは起きないと思います。そうではないですか。それがないから、最高責任者の町長あるいは一部のそういう、町をどうつくればよい、どういう方向性がいいというもとにおいて実行するから、やはりゆがんだ町民に対するサービス、福祉も医療も教育もそういうものでゆがんだものが出てきてしまうのだと思いますよ。大変なときが邑楽町もこれからも来ると思います。ですから、財調を安易に取り崩す、それで事業実行するということは私間違っていると思います。いかがですか。

○立沢稔夫議長 金子町長。

○金子正一町長 先ほどもお答えしましたがけれども、安易に取り崩すということは考えておりませんので、十分その年度間の計画を立てる上で必要最小限ということで今後も考えていきたいと、このように思っております。

○立沢稔夫議長 4回目です。まとめをお願いします。

○10番 小沢泰治議員 ぜひこれまで歩んできたものは、逆戻りはできません。今後事業執行に当たっては、小さなものは庁内で決めてもらって結構です。町全体、邑楽町のこれからにかかわるような問題につきましては、町民の協議、アンケート等をしっかりとった上で事業執行すれば、この予算の歳入の面でこのようなことになることはないと思うのです。今後の邑楽町の円満な発展のために、ぜひ考え方を直していただければと思います。よろしくをお願いします。

○立沢稔夫議長 ほかに質疑ありませんか。

よろしいですか。

小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 3款の民生費でちょっとお尋ねしたいのですけれども、予算書の95ページです。

〔「歳出にっていない」と呼ぶ者あり〕

○12番 小島幸典議員 まだいっていないですか。

○立沢稔夫議長 後でお願いします。

○12番 小島幸典議員 では、失礼しました。取り消します。

○立沢稔夫議長 ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 進行してよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 次に、歳出の第1款議会費、第2款総務費、第3款民生費について質疑を行います。

予算書では、52ページから111ページとなります。

質疑ありませんか。

小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 3款民生費の予算書の95ページですね。これは第3子出産祝金事業にかかわる質問をします。これ町長が誕生して5年になりましたけれども、町長の公約の中で出産祝金はもとに戻しますよと、これは前町長が1人第3子出産祝金の1人20万円を10万円ということで、こどもの医療費に充てるのだという名目でありました。これは子供の6年生云々というその医療費のあれば、県で後から増加されるというか、県のほうからの政策でなってきたております。これは私の所管でありますので、福祉のほうなので、町長にお尋ねしたいのですけれども。先ほど私が話したように、町長が5年前にもとへ戻しますよと、第3子出生祝金は20万円に戻しますよと、その中で右往左往して、いろいろ交渉があったわけなのです。そういう流れの中で、先ほど本間議員、神谷議員が話されたように、ある意味では、町の予算は余裕があるのですね。ということは繰り返ししているわけですから、そういう流れの中で、この出産祝金は、町長の公約なのですね。私が何を言いたいかというのを言いますと、赤ちゃんを育てる、産むということは、会社休んだり、役所休んで、お金が休んでいる間出ないのですよ、非常にお金がかかるだけで。そういう流れの中で弱者、本当に生活弱者に何がやっぱりできるかということが私は行政でもあるし、政治だと思うのですよ、基本は。それを5年前に町長がもとへ戻すよと言ったことは、私は大賛成だったのですよね。ということは、私も民生委員12年やっていて、本当に生活の大変な人というのは、やっぱり子供がいる家のほうが大変なのですよ。自分は働けない。保育園へ預ければ、保育園の措置費はかかる。幼稚園をちゃんとそういうふうに学費はかかる。そういう流れの中で、町長、わずかと言ってはいけませんけれども、税金なのですから、300万円のお金の出しどころはやはりこれは町でなければ出ないですよ。会社だとか、地区だとか、隣近所ではなかなか応援できません。そういうことを考えれば、行政がちゃんとやはり将来の町を背負っていく子供たちに温かい支援の力を出してもらわないと、10年、20年先、子供たちが働けるようになるときに初めてそれが実ってくるのではないですか。私よくお金を回転させろと言いますが、そういう中でもっと突き詰めて言えば、お金を10万円プラスするだけではなくて、町の商工業者で使える商品券でもいいと、この前も一般質問で話したことあると思いますけれども、そういう手だて、とにかく弱者に対してもっと温かい手を差し伸べてもらいたい。その辺町長、自分の公約にもあったことだから、もう一度これから次の来年度予算は考えますよとか、みんなと検討委員会をつくりましょうとか、その辺の考えはどうですか。

○立沢稔夫議長 金子町長。

○金子正一町長 子供を産み、育てていくそのいわゆる子育て環境を整えていくということは、私は大切なことだと思っていますし、引き続き取り組んでいきたいというふうに思っています。

あわせて、その子育てで育ってきた子供たちをいわゆる環境、教育の場で議員常々言われておりますけれども、人づくりだと、それが地域に貢献をしていただけると。したがって、教育環境も充実をしていくことが大事ですよということは、議員のほうからも常々伺っているところでもあります。私はこれまた教育環境の充実ということは、同じように進めていきたいというふうな思いもあります。したがって、町民の皆さんにそういった少しでも環境が整った中での事業を進めていくということについては、議員のご意見と同じでもありますから、あわせて一緒になって取り組んでいきたいというふうに思っています。

○立沢稔夫議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 今、環境が整ったらという町長の答弁なのですけれども、では一つのラインとして、町長、この予算で、予算ですね。25年予算で1億円以上余ったら復元しますか。お金が余ったらですよ。余ったのをちゃんと貯金するのではなくて、子育て支援に第3子出産祝金をどんなふうな形でもいいですから、黒字になったらこの25年予算が何千万円でも、1億円でも黒字になったら、即こういう生活の弱者、そういうはっきり言って、第3子出産した人たちに何らかの形で援助、もとへ戻すような努力、要するに黒字になったら、ラインは私はここで決めますよ。5,000万円以上の黒字になったら、わずか300万ですよ、もとへ戻したってですよ。はっきり言います。5,000万円以上黒字が出たら、それを復元の材料として、民生委員児童委員協議会で討議して決めてもらいたい。どうですか、町長。

○立沢稔夫議長 金子町長。

○金子正一町長 先ほども余剰金が出るかどうかということについては、歳入歳出イコールゼロということになっての予算措置でもあります。それにお金が余剰金が出たら、今、議員が言われたような項目について増額が可能か、約束ができるかということについては、それについてはこれは他の項目もあるわけですよ。したがって、5,000万円余れば、1億円以上余れば、そういったことについて約束ができるかということについては、今の時点ではその約束は申しわけありませんが、することはできません。また、いずれそのような状況が出たときには、ご相談をさせていただいて進めていく。今の段階では約束することはできないということでお答えしたいと思います。

○立沢稔夫議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 町長、では銭が余ったらどうするのですか。例えばですね、昨年度の国民健康保険ですね。これは補正を組んで、取り崩しています。これがある意味ですよ、病気する人とか、あとはインフルエンザ等がなくて、費用が少なくて済んだと、こういう場合もあるのですよ、経済というのは。それでいて、銭が余ったか余らないかわからないって、余った場合はどうですかと私は聞いているので、余ったら当然ある意味では、会社では要するに配当するのですよ、株主配

当とって。町は会社ではないから、であればそういう生活弱者、「情は人のためならず」と私はこの前も言いましたけれども、そういう愛情を持った行政政策、政治政策、これ一番人間の生活の中で私は大事だと思っていますよ。愛なくして政なしですよ。愛情がなければ行政なんてやらなくたっていい、はっきり言って。そういうことでとにかくできるだけ大事な人間の命、生活、これを基本に町長、これからも行政運営してください。私はそういう流れの中で、町民にもそれは訴えます。答えはいいです。これで終わります。

○立沢稔夫議長 本間恵治議員。

○14番 本間恵治議員 71ページか、弁護士謝礼ということで60万計上してありますけれども、この謝礼というのはどういうことなのか、中身についてお聞きしたいと思います。

○立沢稔夫議長 飯塚総務課長。

○飯塚勝一総務課長 お答えいたします。

弁護士謝礼については、今、顧問弁護士制度を採用しております。ということで、顧問弁護士の費用でございます。

以上でございます。

○立沢稔夫議長 本間恵治議員。

○14番 本間恵治議員 謝礼と言うより、顧問料というか、そういう形なのでしょうね。ただ、謝礼というのはちょっと違う意図にもとれるので、私は質問したのです。邑楽町、いろんなことで最近訴えを起こされたり、いろいろ裁判をやっているような報告も受けていますけれども、そのようなために顧問料を払って年間お願いしようということでの予算立てだと思えます。このようなことが過去にはなかったわけですね。ごく最近ですよ。中学生が子供にけがをさせたというふうなことから始まって、いろんな訴えが起こされていますね。そういう点で顧問料をとるとというのが何かのためにということになるのでしょうかけれども、この予算をみすみす使うわけですから、これは町がもし訴えられたときのためにということなのでしょうけれども、それについてこの予算をとるということについて、町長はどのようなお考えなのかお聞きしたいと思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

○金子正一町長 最近特にそのような事象があります。そういうことを考えれば、大変残念な結果ということでのこのような予算計上でもあります。しかし、専門的な部分が大変多くなってきていますので、やはり顧問弁護士を指定し、お願いをして、その時々の問題について対応し、できるだけ未然に防止できるような状況をつくっていきたいというふうに思っております。計上することがいいか悪いかということになりますれば、大変残念な状況ではありますけれども、仕方がない状況かなど、そんなふうには思っております。

○立沢稔夫議長 本間恵治議員。

○14番 本間恵治議員 過去にはこういうことが余りなかったから、こういう予算をとるというのは



なかったのですね。町のこの庁舎をつくる以前のときから、裁判ざたがいろいろ始まりまして、いろんなことがありました。町も訴えられたり、そして弁護士を頼まなくてはならないと、相手が訴えてくれば、それを受けて立たなくてはならないですから、でも、こういう予算をとるということは、本当に過去からすれば不名誉なことですね、町が訴えられるわけですから。そういう部分では、やはり何らかの原因があるから訴えられるのですね。そういう部分では執行側もきちんと毅然とした態度でやっぱり事に当たらなければならないという、そういう私は戒めでもあると思うのですね。みすみすこのお金を使うわけですから、それも町民の血税の一端なのです。過去には使わなくてずっと済んでいたわけですから、そういうことをやはり考えたときに、簡単に訴えを起こされる、そういう執行者であってはならないというふうに思うのです。そういうことについてはですよ、やはり執行者の一番最高責任者である町長みずからが、やはりそういうことが起こらないように、こういうお金を使わなくてもいいように、やはり風紀上、倫理上きちんとした執行体制を組んでいかなければならないというのが私は町長に問われた姿勢だと思いますので、このことについては私はある意味では、不名誉な予算だと思います。もったいないです。この予算を載せたからといって、何かよくなるわけではありませんね。誰かが訴えを起こされたときに、それを受けて立つための予算ですから、ですから、謝礼というふうに載せたのでしょうけれども、ある意味では不名誉な予算ですよ、町としては。そういうこともやはりきちんとした職員の指導体制とか、そういう部分では副町長も、教育長もみんな三役そろっているのですから、そういうことがないようにきちんと部下を指導していただいて、下に書いてある弁護委託料というのが存目で載っておりますけれども、そちらにお金をかけるようなことがないように、きちんとした執行体制を組んでいただきたいと思います。それについて町長のお考えをお聞きしたいと思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

○金子正一町長 そのとおりだというふうに思っております。これからもそのようなことがないように取り組んでいきたいと、このように思います。

○立沢稔夫議長 ほかに質疑ありませんか。

神谷長平議員。

○5番 神谷長平議員 75ページですが、町税徴収嘱託員報酬の関係なのですけれども、前年度に比べまして額が大分減っているのですが、この辺について、税のほうの徴収は間に合うのですか。その辺参考に。

○立沢稔夫議長 諸井税務課長。

○諸井政行税務課長 お答えいたします。

町税等の徴収嘱託員の報酬が258万円今回計上させていただきました。前年度に対しまして201万6,000円の減額になっております。その理由ですけれども、それまで2人の嘱託員の方がいらっしゃいましたけれども、24年、25年と1人の嘱託員ということで対応をさせていただいた内容でござ

います。

以上です。

○立沢稔夫議長 神谷長平議員。

○5番 神谷長平議員 過年度見ても、税の滞納がかなり多くあったわけですが、その嘱託員を減らしたときに、影響は出ないのですか。税込の上がりですが、お願いします。

○立沢稔夫議長 諸井税務課長。

○諸井政行税務課長 25年度につきましては、徴収係のほうで県から職員が派遣されております。それで、嘱託員の方1人大体2,000万前後の税を回収していただいていると、そういう内容で、24年度については県の職員、そして25年度につきましては、また人事異動等もありますけれども、その中で一生懸命頑張っていきたいと、そういうふうを考えております。

○立沢稔夫議長 神谷長平議員。

○5番 神谷長平議員 一番大変な職務かなと思いますので、今後とも税込が1円でも多くなるように励んでいただきたいと思います。

以上で終わります。

○立沢稔夫議長 ほかに質疑ありませんか。

小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 67ページの企画費のところ、地域づくり推進事業ということで、邑楽町協働のまちづくり活動補助金200万円というのが新規事業で載っているわけですが、これについて町長がどのような考えのもと、これを提案なさったか。なぜかといいますと、要綱案もろくに審議もされず、また協働のまちづくりというものが町民にも第五次の長期総合計画には載っておりますけれども、具体的にどうするは町民には何一つ伝えてありません。公的に誰でもが知るような手法で伝えてありません。そんな中であって、この200万円をなぜ計上したか。要綱もまだスタートもしていない状態ですから、こういうものをなぜするかということについて、まず高齢化している各地域、行政の地域、また町全体とすれば税込の減少、そしてそれに伴って行政のスリム化というものを考えなければならない時期に差しかかっているわけですから、非常に協働のまちづくりは大事かと思えます。ですから、町民各階層がこれに同じ目的を持って参画をする。そのために何をすべきということで非常に大事かと思うのですね。

私個人的には、この200万円という事業、ものについては白紙撤回をして、再度町民の意向を図りながら計画にのせてもらえればと思いますけれども、町長、いかがですか。町民の意向を全然聞いておりません。個人的にある家庭を回って聞いた、あるいは庁舎内でこういうものがないということで合議はしたのかと思いますけれども、末端にも知れ渡っていないものですから、これについてご説明をお願いいたします。

○立沢稔夫議長 金子町長。

○金子正一町長 この協働のまちづくりの活動のための補助金の要綱については、過日の全協の中でいろいろご議論をいただいて、今担当する委員会の中でいろいろその内容を詰めていただいているところでもあります。大変そういう点では、直近の中での提案ということで申しわけなく思っているわけでもありますけれども、さてなぜ計上したのかということでは、昨今やはり町民の皆さんとのこの触れ合いといいますか、かかわりが薄くなっている、行政もある面ではやはり一緒になってまちづくりをしていくということが大事なことだろうということがあってもあります。町民の方の意向を聞いていないのではないかとということが出されましたけれども、やはりこれは積極的に働きをかけることも必要ですし、町民の皆さんからそういったことについてのいろんな考え方、持っているノウハウ等を出していただいて、地域づくりをしていく、地域のこの連携を密にしていく、そのことがひいてはまちづくりにも当然かかわって、充実をしたまちづくり、お互いに力を合わせてやっていくということが大切なことでもあります。そのことによって皆さんとのこのまちづくりが共有できれば、そういうことで考えておりますので、特にこれから要綱を詰めていただいて、その要綱についてご理解をいただいた後に、この予算についても執行をしていくような考え方でもあります。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 例えばこれだけ高齢社会になっております。非常に各地域、隣組等においても、各家庭との関係が疎遠になっております。そういう中でありますから、協働のまちづくりというものは推進しなければならないと思います。しかしながら、町長以下執行部の一部がこういうものを出してきて、これでやれというその手法が町民の合意、町民の各階層、各職業、そういう方々の意向を尋ねた中で、それで、それではこういう方向に行きましょうということであるのであれば、まともな手段です。これは押しつけです。

私がある議員にお話ししましたが、ある国の全国人民代表者会議、そういうことがあって、提案されたものを、あれは何か1人だけ反対したというふうに新聞等には載っていましたが、それとある意味同じ集団です。邑楽町は狭いのです。日本も狭いですが、邑楽町は狭いのです。そういう中で各階層、各業種等もろもろの皆さんの意見あるいは無職の方もいらっしゃいます。若年者、高齢者いらっしゃいますから、そういう方が全てテーブルの上ののって、ではどのように今後の厳しい邑楽町を進めていくか、当面は邑楽町単独で、合併でなく、単独で進むという方向でしょうから、その中でやはり各階層の皆さんの意見を吸い上げて、あるいは意向を聞いて実行するのが当然かと思えます。こんな性急に出てきて、これをどうこうすることが町長の事業執行の手段ですか、もろもろについて過去もこういうことが出ましたけれども、教育委員会の問題もそうです。そういうことでぜひ直していただきたい。教育委員のことについても、今後はそのようなことはなく、皆さんのいろいろ話を聞いた中で進める、そういう話もしていただきました。ぜひこれを白紙に、要綱案については白紙に戻す、あるいはこの予算200万円も撤回する、そういうこと

でお願いしたいと思うのですが、いかがですか。少なくとも要綱案については白紙に戻す。町長、いかがですか。

○立沢稔夫議長 小沢議員に申し上げます。

ただいまの質疑は、さきの全員協議会において総務教育常任委員会の協議が終了した後、全員協議会に再度諮り、了解が得られた後、要綱を施行することになっております。全員協議会で既にそのようにご確認いただいておりますので、ご理解をお願いします。

ほかに質問ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 暫時休憩といたします。

〔午前11時17分 休憩〕

---

○立沢稔夫議長 休憩前に引き続き会議を開きます。

〔午前11時30分 再開〕

---

○立沢稔夫議長 次に、第4款衛生費、第5款労働費、第6款農林水産業費について質疑を行います。予算書では110ページから139ページまでとなります。

質疑ありませんか。

大野貞夫議員。

○8番 大野貞夫議員 質問させていただきます。

113ページ、国民健康保険の特別会計繰出金の項目について質問をさせていただきます。ご承知のように、国保は非常に大変な時代になっておるわけですが、この欄に載せております1億七千八百何万のうち、保険基盤の安定制度の繰出金並びにその他一般会計の繰出金ということで、合計でいきますと1億1,000万円という金額が計上されております。

町長にお伺いをいたしますが、今この基金もほとんどないような状態の中で、これをもう少し繰出金をふやす、一般会計からふやしていくという考え方は町長の中にございますか、お伺いをしたいと思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

○金子正一町長 国民健康保険については、その療養費、療養給付費等がふえているという状況があります。特に退職者の被保険者の皆さんが国保に加入ということもありますから、そういう点から考えていけば、これから歳出になる医療費の増というのは考えられると思いますけれども、しかし、国のほうでも県のほうでも、その保険基盤の安定制度の繰り出し、これらについて十分検討していただいているようでもあります。現段階で町からの一般会計繰出金についてふやす考えがあるかないかということではありますが、これについては、これは医療費は年々その年の状況によって大きく

変動があるというふうに思いますので、現時点においてはこの繰出金をふやすということについては、十分慎重に行っていく必要があるのかなと、こんなふうに思っております。

○立沢稔夫議長 大野貞夫議員。

○8番 大野貞夫議員 多分そういう返事が来ると思いました。しかし、今後のこの国保の状態を見ますと、ただ単にそれだけで済むかということ、そうでないというふうに私は思います。町の国民健康保険税の滞納額が今現在どのくらいあるかということを経のほうから資料として私いただいておりますので、その数字をもとにしてまた質問させていただきますが、平成23年度まで、これは現年度は含まれておりません。現在国民健康保険税の滞納額が世帯数でいきますと706世帯、非常にたくさんの方の世帯の方が払いたくても払えないと、こういう現状になっております。金額にすると2億3,825万9,616円という数字をいただいております。今この706世帯というのは、もっとふえているのではないかと思うのですが、年々これは私はふえていくのではないかと。こういう状態を考えてみた場合に、それでは一般財源からこれ以上ふやすというのは大変難しいということになれば、逆にこの2億三千八百何万かの滞納額を何とか減らす方法はないものかという点からすると、全国でもある自治体においては、多少なりとも国保税を減額をすると、むしろ。減額をすることによってこの滞納額を減らすという考え方でその成果を上げている自治体も幾つかあるように私は伺っておりますが、その辺町長としてそういう考え方に対してはどのように思いますか、お聞かせをいただきたいと思っております。

○立沢稔夫議長 金子町長。

○金子正一町長 議員、済みません。ちょっと時間いただきたいと思っております。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○金子正一町長 済みませんです。国保税の減額をする考えはないかということですが、と申しますと、やはり国保税率を下げるかどうかということにつながるわけですが、現段階で今、担当課長のほうに確認したのは、税率がどうなのだろうかということなのですが、当然これは税率を改定するという事になれば、審議会にもかけなくてはなりませんけれども、現段階でその税率が高いというか、他に比較して、比較しての話になってしまいますけれども、必ずしも高くないというような状況の中で推移をしているということでもあります。したがって、減額をする必要を考えているかどうかということであれば、これまた大変お答えが明確に出せなくて申しわけないのですが、慎重に状況を見て考えていく必要があるのかなというふうに思っています。

○立沢稔夫議長 大野貞夫議員。

○8番 大野貞夫議員 税率を変えるということになりますと、今の決め方というのは、もういわゆる所得割あるいは均等割とかという形の中で決められているわけです。それは他市町村との比較ということももちろん当然各自治体間との連携ということからすれば、そういうことも考えられるのでしようけれども、邑楽町独自としてやってやれないことは私はないのではないかと思うのですね。

その辺も今後の研究課題としてぜひひとつ考慮していただいて、言うなれば先ほど来から出ておりますこのいわゆる財政調整基金という、こういうものからこそ、こういう非常に大変な中にあるご家庭をやっぱり救済するという意味においても、その税金はこういうところにも私は使うべきが本当ではないかと思うのです。非常に先ほど来からの話を聞いておりますと、毎年毎年、この基金が大変、大変と言いながらも、実際はふえてきていますよ。しかし、このふえてきているのも、やはり町民のためにこそ使って初めて税金が生きてくるというふうに思いますので、その辺をぜひ検討課題としてこれは私の要望としておきますけれども、今後とも引き続いてこの問題については取り組んでいきたいと思っておりますので、ぜひよろしくご検討のほどをお願いしておきます。

以上です。

○立沢稔夫議長 ほかに質疑ございませんか。

本間恵治議員。

○14番 本間恵治議員 ただいま大野議員が申しましたけれども、税を下げれば、それは滞納率は下がるかもしれませんが、全体の予算は減る可能性もあるわけですね。ですから、私は何度か言いましたけれども、資産割をできるだけ減らして、なくして、所得割をふやすとか、やはりそういう対応するほうが困った人が払えないわけですから、そのほうが有効かなと思うのですね。町長は必ずその審議会のほうで検討すると言いますが、提案権は町長にあると思うのですね。町長がこういう形の中で検討してほしいということであれば、私はその審議会は動くと思うのですね。町のトップである町長が提案をするわけですから、何だか今までいろんな話すると、そっちで決めて、町長は発言権がないようなちょっと弱腰な部分があるのかなと思うのですけれども、町民全体のことを考えた場合には、やはり所得割をできるだけ上げるほうが、所得がある人からもらう分には問題ないわけですから、ない人から取ろうとしても、それは払えない人が滞納になるのだと思うのですね。払えるのに払わないという人もいるかもしれませんが、それは私は数少ないと思うのですよ。ですから、そういう部分では不公平の是正を図るためには、所得の多い人からいただくというほうが私は自然だと思うので、そういうところはやはり見直すべきときにはきちんと見直しをして、それで不公平の是正を図っていくのが執行部側の立場だと思っておりますので、きちんと精査をした中で対応していただければと思います。

終わり。

○立沢稔夫議長 よろしいですか、答弁。

○14番 本間恵治議員 はい。

○立沢稔夫議長 ほかに質疑ございますか。

進行してよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 進行します。

次に、第7款商工費、第8款土木費、第9款消防費について質疑を行います。予算書では138ページから161ページまでとなります。

質疑ありませんか。よろしいですか。

本間恵治議員。

○14番 本間恵治議員 155ページかな。鶉の土地区画整理事業ということで予算が載っています。所管ですから、課長に答弁は求めません。町長にお聞きしたいと思います。

平成17年から事業が開始され、今度平成25年の予算ですね。現在23%の進捗状況だそうでございます。そして、ここに1億3,546万5,000円、前年度よりは若干予算はふえていますけれども、中身については3件ぐらいの建物の補償費等をとるとお金はないのですね。ここの地権者からも、必ず早く予算を出してほしいということで当事者から再三にわたって言われました。でも、予算が通らないとお客さんのほうにはその執行はできないのでという話をしますと、結局は半年から1年待っているのですね、事業が執行されないで。下話をして、いつ予算の提示があるのだろうと、その繰り返しなのです。ですから、ましてや建物がかなり密集しているところを今度区画整理が始まってきたわけですから、そういう部分ではこの予算に限らず、緊急でやっぱりそれこそ財政調整基金を使ってでも進んで協力していただけたところについては、やはり執行側としてきちんとした対応をしていただくということが私は一番大事だと思うのです。これも平成17年から24年まで実際にかかった費用は15億から16億ぐらいですね。そうすると町長が今やろうとしている中央公民館と使った金額が同じなのです。そうすると私はどうしてもそれをやっぱり比較したときに、どっちを優先して町長が肩入れしてやっているのだろうと、私は一般の町民に訴えたくなるのです。片方は基金を取り崩して借金をしてやる。鶉の区画整理については、町からの持ち出しというのはそんなにないのです。県とか国からの補助金いただきながらやっているから。そうするともう少し予算措置をしていただかないと、どんどん、どんどんおくらせていくのは目に見えているのです。しかも平成35年完成という目標を掲げながらやってきているのです。それに対してこの予算措置が多いか少ないかという以前に、少な過ぎるのですよね。それについて町長が今後どういうふうな姿勢の中で取り組んでいくお気持ちがあるのかお伺いしたいと思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

○金子正一町長 まず、予算の可決から実施まで時間がかかってしまうと、大変関係する方には迷惑がかかっているというふうなお尋ねですけれども、これについては予算の可決をいただいた後に、もちろん計画の準備もありますけれども、早急に実施ができるように指示していきたいというふうに思います。

それから、予算の額の問題ですけれども、言われますように、一定のこの決められた期間があるわけでありまして、その区画整理事業については、議員が言われましたように、計画に基づいて行われているということもあります。当然のことなのですけれども、国・県、それから町の予

算執行の中で行わせていただいておりますけれども、今年度については確かに言われますように、補償費が中心になってくるわけでもあります。今後予定地等についても、この家屋の多く建っているところが多いわけでもありますので、十分その辺も配慮しながら、計画とあわせて進めていきたいと、そのように思っております。

○立沢稔夫議長 本間恵治議員。

○14番 本間恵治議員 本来は、この土地区画整理事業は、その区域の人たちが平等な権利を持っているわけですね。現在までにでき上がったところについては、もう道路ができて、土地を売りに出しているところもあるのですね。しかしながら、道路ができないところについては、相続で相続税が発生しても、売るに売れない。そういう困っている方もいるのですよ。それがひとしく平等な立場で私は対応するのであれば、やはり遅滞なく早急に対応していただく、それが執行側としての役割だと思えます。そこのところを念頭に置いて、平成35年完成と言うと、「できないよ」と口々に言いますが、私はやはりそういうふうに目標を掲げたのであれば、庁舎の前に横断幕掲げてくださいよ、1つ。それに向かって執行体制きちんと組んで、少しでも近づけるために予算措置をしていただいて私はやっていただきたい。やっぱりそれが執行側の戒めにもなるのではないですか。何だかみんなこの予算措置見ていて、誰も35年に完成すると思っていないでしょう。ある意味ではやる気がないのかなというふうに思いますよ、私は。言いわけ程度に前の年より予算をわずかふやしましたと、そういうのではだめでしょう。簡単に町長の発言一言で中央公民館ができるのであれば、この区画整理10億円出してくださいよ。そうすれば46%完成になるではないですか。倍の完成になるのですよ、それ出せば。今までの経過の予算措置からすれば、ましてや町から出すお金は私は少ないと思うのですよ。国と県から補助をもらいながらやっているのですから、やっぱりそれだけの精力的な予算を執行していただく。ましてや基金に繰り入れたり、そういうお金があるのであれば、少しでも鶉の区画整理に回していただいて、少しでも早く地権者の方々に喜んでいただくような執行体制を組んでいただきたい。よろしくお願いします。

○立沢稔夫議長 よろしいですか。

○14番 本間恵治議員 はい。

○立沢稔夫議長 ほかに質疑ありませんか。

進行してよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 進行します。

次に、第10款教育費、第11款災害復旧費、第12款公債費、第13款諸支出金、第14款予備費について質疑を行います。予算書では162ページから239ページまでとなります。

質疑ありませんか。

本間恵治議員。



○14番 本間恵治議員 165ページ、中学校再編統合調査研究事業ということで7万円の予算がとつてあります。私はさきの一般質問等でも再三にわたり中学校は1つでいいということで訴えてまいりましたけれども、なかなか腰を上げずに、平成25年度になってやっと予算措置がなされました。新規事業ということでの7万円の措置でございます。遅滞なく、子供たちは逆戻りはできないのですね。子供たちを取り巻く環境等をしっかりと見据えた中で、早急にこの統合に向けて対応をとっていただきたいというふうに私は切に思います。なぜならば、部活も思うように生徒の数が少なくできない、そういった子供たちもいます。子供たちの教育、子供たちの立場に立って真っ先に考えた中で早急に対応していただきたいと思っておりますけれども、教育長の見解をお伺いしたいと思います。

○立沢稔夫議長 大竹教育長。

○大竹喜代子教育長 昨年来、中学校の再編問題につきましては、議会でも出されております。そこで、何か手をつけていかなければならないということで考えてはまいりました。そして、平成25年度からはとにかく大人の都合で子供の教育が平等にいかないというのはいけないと、そういうことなので、まず調査から手をつけていこうということで、こちらから勝手にこうあるべきという大人の都合で進めていくのではなくて、子供、そして親、地域の人、さまざまな関係者からまずご意見を聞いて、そして手をつけられるところからつけていこうということで、平成25年度は7万円の予算を計上いたしました。これはアンケート調査の経費でございます。

以上でございます。

○立沢稔夫議長 本間恵治議員。

○14番 本間恵治議員 アンケート調査の予算だと、平成25年度はそれだけで終わってしまうのですか。それは寂しいですね。私はそれを踏まえてきちんとやっぱり早急に対応していただく。なぜならばですよ、この先子供たちがふえる見込みがあるのならいいですよ。どんどん、どんどん減っているのはわかっているでしょう。小学校、幼稚園、保育園、生徒の数を見ればわかりますよね。減っていますよね。教育長はさきの私の一般質問の中では、桐生市は8年かかったと言われました。8年かけてやるつもりですか。私は邑楽中学校の統合のときには、邑楽中には入れませんでしたけれども、最後の中野中学校の卒業生で、邑楽中学校中野教場と申しました、その当時は。私たちは椅子を運んだだけで、屋上へ行って1回眺めただけでした、邑楽中学校は。でも、それが自然と移行になって、そういう形をとったわけですよ。再三言いますけれども、邑楽中学校が邑楽南中学校と2つに分かれたときの邑楽中学校の生徒の数より、両方足しても現在はもう少なくなっているのですから、当然1つにしてしかるべきですよ。それを、それはアンケートとるのもいいです、一つの方向性を出すのですから、でも、どんどん、どんどん行政のほうで手を差し伸べてきちんとまとめて早急にやっていかなければ、後手後手に回るのは当たり前でしょう。当然でしょう。もし早くできればですよ、南中学校が空き教室になれば、それをコミュニティセンターとか、いろんな形の

中でお年寄りや子供たちや障害者、そういった人に開放することだってできるでしょう。どんどん、どんどん先駆けてちゃんと行政執行をやっているかなければ、どんどんおくれてしまいますよ、邑楽町は。人口が少なくなっていくのがわかっているのに、ふやそうとして一生懸命やっているのでしょうか、邑楽町は。そういうことからすれば、やっぱり子供を取り巻く環境もどんどん整備した中で、よそから邑楽町がいいと言って来てもらえるようなやっぱりそういう執行体制をちゃんと確立していかなければ、どんどん流出することはあっても、よそから邑楽町に来ないですよ、人は。そういうことをきちんと念頭に置いてしっかりと教育行政もやっていただきたいと思いますが、答弁をお願いします。

○立沢稔夫議長 大竹教育長。

○大竹喜代子教育長 私が例として8年と申し上げたのであって、桐生市のように8年かけてやろうという気持ちはございません。あくまで例の8年でございます。

それから、これ7万円というのは、アンケートだけとって終わりということではなくて、アンケートをとる費用としては上げてありますけれども、このアンケートを早急にまとめまして、それに基づいて検討委員会を立ち上げたいということは一般質問のときに申し上げたとおりでございます。そして、その方向性を出しながら進めていくということで考えております。

また、子供たちの数ですけれども、子供たちの数は平成30年度までを見越して数を見ていきますと、じりじりと減っているのは事実ですけれども、クラスにつきましては、ふえたり、減ったりしながらいるという現状もございます。ただ、減っていく方向にあるのは確かですので、再編に向けては関係者とともに取り組んでまいりたいと、そのような覚悟でおります。

以上でございます。

○立沢稔夫議長 本間恵治議員。

○14番 本間恵治議員 突っ込んで聞くなら、例で8年と言いましたと。では教育長は何年をめどにその執行体制を組んでいくのかをお聞きしたいと思います。

○立沢稔夫議長 大竹教育長。

○大竹喜代子教育長 まず、アンケートをとりまして、そして現時点ではできるだけ早くということに検討する内容を、まず1年目ですので、よく見まして、そして確かな計画で進んでいきたいと、そのように考えております。

○立沢稔夫議長 本間恵治議員、4回目です。

○14番 本間恵治議員 言葉を濁すのですね、そうやって。きちんと言えないということは、執行体制の甘さなのですよ。少し予算をとったということは、将来を見据えてアンケートをとっても、私は結果的にはいい方向に向くのではないかなと思うのですね、現状が現状ですから。そういうことを踏まえた中で、きちんといつごろをめどにそういう体制を組んでいくのか。やはり教育委員会としてもですよ、教育委員さんもいるのですから、きちんと執行体制を組んでいただいて、やっぱり

それにスムーズに移行できるような対応をとっていかなければならないと思うのですね。私たちが  
邑楽中学校中野教場の卒業生であったように、邑楽中学校には行っていませんけれども、やはり  
そういう執行体制をきちんと今までに統合した例もあるわけですから、それをもとにまたきちんと  
した体制を組めばいいわけでしょう。過去にやった例もあるのですから、邑楽町は、統合した。や  
はりそういうことをきちんと踏まえた中で精査して、早急に対応できるように、より早くできるよ  
うに、スムーズにできるようにきちんと執行体制を学校教育課長中心、教育長中心、教育委員会中  
心にして頑張っていたいただきたい。よろしくお願いします。

○立沢稔夫議長 ほかに質疑ありませんか。

小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 207ページ、下から2番目の丸の社会教育施設建設準備事業12万1,000円、こ  
れ公民館ホールの検討委員会の予算だと思うのですが、ぜひ町の原点に立ち返って、事業執行を進  
めていただきたいと思うのです。この間の町長の話によりますと、8月以降、前に進めるのだとの  
話もありましたけれども、今の中学校の問題にしても、現実には子供は減っている。結果として人口  
は減る、世帯数は減る、学校においては諸活動に支障がある、そういうことがあるわけです。です  
から、本間先輩がおっしゃるのは当然だと思います。早急に進めて、それを実行する。また、だと  
すれば、学校教育活動の場である中学校が社会教育の施設として十分活用ができる場となります。  
邑楽町のセンターにはありませんけれども、時間ですれば、5分、10分です。ですから、やはり事  
業執行に当たっては、一般質問でもしました。町全体、またこの広域、県の関係、国の関係、そう  
いうのをもろもろ踏まえた中で、高い次元に立って物事を判断していただきたいと思うのです。今  
の本間先輩の質問、それと相兼ね合うところがあると思うのですが、町長、この12万1,000円の予  
算執行、それで町の社会教育施設、どのように考えるか。とにかく人口は減るのです。高齢化する  
のです。しているのです。また、施設の利用を見れば、リピーター、同じ団体の方が何回も何回も  
使っている。そしてまたその施設を使うのに、今裁判も起きております。例えばダンス教室をやっ  
ている。そういう事業を営んでいる方が公民館でダンスをした場合に、料金を取るとか、会費を取  
るとかしてやる。もろもろの利用、その目的にそぐわないことをなさっているということで裁判に  
もなっておりますので、そういうものを考えたときに、邑楽町の財政人口等を考えたときに、この  
進め方を変えようとする気持ちがあるかどうか、町長の話お聞きしたいと思います。

○立沢稔夫議長 金子町長。

○金子正一町長 先ほどの議員のご質問にもお答えいたしましたけれども、人づくりは教育、大事だ  
ということを、したがって、こういった学校教育施設にしても、社会教育施設にしても、十分整備  
環境を整えるということは大事だと思います。その結果を出すには、やはり議員の皆さんにご相  
談をさせていただくということが大事でもありますから、今の議員のご意見については、十分考え  
ていきたいと、慎重に対応していきたいというふうに思っております。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 この議会の場で話しするのは、もちろん当然ですけれども、邑楽町の議員の選挙あるいは町長の選挙を見ても、投票率は非常に低いです。過日お話しありましたけれども、当選はしたものの、有権者の3分の1の支持しか受けていないわけですね。そういう中であって、やはり邑楽町が進むべき道がどうかということを考えたら、アンケートなり、住民、町民の意向をしっかり確認して、それをもとにして進めるのが私個人としては当然かと思います。

何の事業でもそうだと思います。それをなさないで、町長以下執行側が進めていく、そのことに問題がある。教育委員会、教育長の先ほどの問題もそうですけれども、その辺をそのことをしっかりと心してこれからの邑楽町のために、単独で生きる邑楽町、とりあえず。また、広域ということで大きな合併も考えなければならないと思います。なぜならば、非常に人口減少というのは厳しいものがあるわけです。高齢化も厳しいものがあるわけです。減少している中で高齢化となると、非常に負担はふえるのが当然です。先ほど国保の問題も出ました。ですから、町民全体が一体となって町をつくり上げる、その考えが私に言わせればみじんもない。そのことについて町長、いかがでしょうか。中学校の問題、公民館ホールの問題について絡めてお願いします。

○立沢稔夫議長 小沢議員に再度申し上げます。

質疑は議題内ということで、簡明にお願いいたします。

金子町長。

○金子正一町長 十分議員の皆さんと相談をさせていただいて、誤りのない事業執行に努めていきたいと、このように思っております。

○立沢稔夫議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 議員は町民の負託を受けて議員になっているわけですから、それは当然です。でも、しかしながら、ぜひ大きな事業、大きな変革、改革があるときには、町民の意向、先ほどアンケートという話出ましたけれども、それをとった上で事業執行していただきたいと思います。その件について公民館ホール、社会福祉施設について、そのような気持ちはございますか。

○立沢稔夫議長 金子町長。

○金子正一町長 この関係については、さきの一般質問でもお答えをしたかと思いますが、具体的にアンケートということのお話がありましたけれども、それについては今のところ考えておりませんが、ご意見として十分お聞きをしておきたいと思います。

○立沢稔夫議長 ほかに質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 質疑なしと認めます。

これにて質疑を終結します。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

大野貞夫議員。

〔8番 大野貞夫議員登壇〕

○8番 大野貞夫議員 議案第24号 平成25年度呂楽町一般会計予算に対して反対の討論を行います。

私たち国民の所得水準は、ここ数十年以来下がり続け、国内の内需は依然として冷え切っています。その上に国は年金の相次ぐ引き下げ、各種補助金のカット、そして予想される消費税10%増税と踏んだり蹴ったりです。我が呂楽町でも昨年の介護保険の大幅な値上げ、また健康保険税など払いたくても払えない滞納者の増加、また憲法第25条、「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」という憲法に反する生活保護世帯の増加などなど高齢者、子供、障害者等社会的に弱者と言われる人たちにいやおうなく荒波が押し寄せています。こうした中、個々には評価すべき幾つかの政策も見られますが、全体とすれば従来と変わらない中央に追随した予算編成となっています。

私はこういうときにこそ、住民の防波堤となるべきと公約を述べてきた一人として、とてももろ手を挙げて賛成というわけにはいきません。今後とも住民の目線に立って奮闘することをお誓いして、反対討論といたします。

○立沢稔夫議長 ほかに討論ありませんか。

原義裕議員。

〔2番 原 義裕議員登壇〕

○2番 原 義裕議員 議案第24号 平成25年度呂楽町一般会計予算に対する賛成討論を行います。

国は日本経済再生を実現するための取り組みを強力に推進するという考えのもと、「日本経済再生に向けた緊急経済対策」を決定し、切れ目のない経済対策の実行により、景気の底割れの回避とデフレからの早期脱却及び成長力の強さを図ることとしています。

このような状況を受け、平成25年度の歳入面では、地方税及び地方譲与税収入は前年度比で微増が見込まれております。一方、歳出面では、社会保障関係の扶助費や公債費が増加しつつあり、財源を圧迫する傾向にあります。こうした中、本町における平成25年度の予算規模は、一般会計で74億6,500万円、前年度に比べ2.1%の減となっており、主な事業は児童福祉、幼児教育の充実として、民生費では老朽化した中央児童館の改築事業、教育費では長柄幼稚園の改築事業が予定されています。また、今年度予定していた石打町営住宅2期工事が予算上は平成24年度に前倒しとなりましたが、実質的には平成25年度中の工事となっております。公営住宅の充実を図るものとなっています。

以上のようなハード事業が予定されていますが、資源を大切にす環境型社会の構築が求められている今日、既存公共施設の修理補修経費も増加してくるものと思われま。限られた財源を重点的、効率的に配分し、最少の経費で最大の効果を上げるよう要望し、また安心・安全はもとより、呂楽町で暮らす喜びが実現できる町政を強く要望し、賛成討論とさせていただきます。

○立沢稔夫議長 ほかに討論ありませんか。

本間恵治議員。

〔14番 本間恵治議員登壇〕

○14番 本間恵治議員 議案第24号 平成25年度呂楽町一般会計予算について賛成の討論をさせていただきます。

財政調整基金の9,000万円の取り崩しにつきましては、私は断固反対の立場でございます。しかしながら、原議員が申したとおり、新規事業、いろんな形の中で取り組んでいます。そして、私はこの25年度の予算については、いささか膨らませた予算を組んでいるというふうにはしか思えませんけれども、職員の方々のこの予算に対する一つ一つの事業の積み重ねに期待をし、そして町民の血税である予算を少ない予算で最大の効果が出せるように、しかも9,000万円を超える予算を生み出していただきたい、そういうふうに職員の皆さんに心からお願いを申し上げ、賛成の討論とさせていただきます。よろしく申し上げます。

○立沢稔夫議長 ほかに討論ありませんか。

小沢泰治議員。

〔10番 小沢泰治議員登壇〕

○10番 小沢泰治議員 平成25年度予算案に対しまして、反対討論をさせていただきます。

非常に呂楽町もしっかりした予算はある意味組んでいるわけですが、その中であって、やはりこれからの呂楽町の根幹をなす協働のまちづくり、その案件並びに社会教育施設としての公民館ホールの場合、その辺につきましては、私個人、私も町民の代表としてここに上がっているわけですから、そういうことを勘案しながら見た場合に、やはりまず行政執行側の手法が誤っていると、町民の意向を確認していない。それがあつために全体的に見ればすばらしい予算かと思いますが、今回の予算組みしてある中で、一部大いに問題があると判断いたしまして、反対の討論とさせていただきます。よろしく申し上げます。

○立沢稔夫議長 ほかに討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 討論なしと認めます。

これにて討論を終結します。

これより議案第24号 平成25年度呂楽町一般会計予算について採決をします。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立多数〕

○立沢稔夫議長 起立多数。

よつて、議案第24号は原案のとおり可決されました。

暫時休憩をいたします。

〔午後 零時20分 休憩〕

---

○立沢稔夫議長 休憩前に引き続き会議を開きます。

〔午後 1時30分 再開〕

---

◎日程第2 議案第25号 平成25年度呂楽町国民健康保険特別会計予算

○立沢稔夫議長 日程第2、議案第25号 平成25年度呂楽町国民健康保険特別会計予算を議題とします。

これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 質疑なしと認めます。

これにて質疑を終結します。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

小島幸典議員。

〔12番 小島幸典議員登壇〕

○12番 小島幸典議員 議案第25号 平成25年度呂楽町国民健康保険特別会計予算について賛成討論をいたします。

現在、国民健康保険に加入している人は、町民の約3分の1、世帯では約半数です。国民健康保険については、高齢者や低所得者の加入割合が高いことや、高齢化の急速な発展や医療技術の高度化に伴い、医療費の増加が続いており、国民健康保険財政は依然として厳しい状況にあります。平成25年度呂楽町国民健康保険特別会計予算総額は、前年度に比べ1億2,659万1,000円増額の29億9,638万9,000円です。国民健康保険は、国民皆保険制度の基盤的役割を果たしており、地域医療の確保や住民の健康維持に大きく貢献しております。厳しい状況の中で今後も予防を中心とした保健事業の充実と健康増進対策などに努力するとともに、国保税の適正な賦課徴収に努められ、一層の国保財政の健全化を図るよう期待して本予算に賛成いたします。

○立沢稔夫議長 ほかに討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 討論なしと認めます。

これにて討論を終結します。

これより議案第25号 平成25年度呂楽町国民健康保険特別会計予算を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立多数〕

○立沢稔夫議長 起立多数。

よって、議案第25号は原案のとおり可決されました。

---

◎日程第3 議案第26号 平成25年度邑楽町後期高齢者医療特別会計予算

○立沢稔夫議長 日程第3、議案第26号 平成25年度邑楽町後期高齢者医療特別会計予算を議題とします。

これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 質疑なしと認めます。

これにて質疑を終結します。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 討論なしと認めます。

これにて討論を終結します。

これより議案第26号 平成25年度邑楽町後期高齢者医療特別会計予算を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立全員〕

○立沢稔夫議長 起立全員。

よって、議案第26号は原案のとおり可決されました。

---

◎日程第4 議案第27号 平成25年度邑楽町介護保険特別会計予算

○立沢稔夫議長 日程第4、議案第27号 平成25年度邑楽町介護保険特別会計予算を議題とします。

これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 質疑なしと認めます。

これにて質疑を終結します。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

坂井孝次議員。

〔7番 坂井孝次議員登壇〕

○7番 坂井孝次議員 議案第27号 平成25年度邑楽町介護保険特別会計予算について、賛成討論をいたします。

平成25年度の介護保険特別会計予算総額は17億100万4,000円で、前年度に比べ5,111万4,000円、率にして3.1%の増となっています。第5期高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画の第2期を迎え、高齢者数の増加とともに、介護保険認定者数、介護サービス利用者数も増加し、介護サービス



給付費は毎年増加が見込まれます。

高齢者の方が住みなれた地域で自立した生活を安心して送れるよう介護予防事業に積極的に取り組むことを要望し、本案に賛成いたします。

○立沢稔夫議長 ほかに討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 討論なしと認めます。

これにて討論を終結します。

これより議案第27号 平成25年度邑楽町介護保険特別会計予算を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立多数〕

○立沢稔夫議長 起立多数。

よって、議案第27号は原案のとおり可決されました。

---

◎日程第5 議案第28号 平成25年度邑楽町下水道事業特別会計予算

○立沢稔夫議長 日程第5、議案第28号 平成25年度邑楽町下水道事業特別会計予算を議題とします。

これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 質疑なしと認めます。

これにて質疑を終結します。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

半田晴議員。

〔6番 半田 晴議員登壇〕

○6番 半田 晴議員 議案第28号 平成25年度邑楽町下水道事業特別会計予算について、賛成討論を行います。

公共下水道の整備も順調に進み、新たに7ヘクタールの供用開始区域の拡大を図り、149ヘクタールとする予定であり、関係者の協力のもと排水設備接続も順調に進められております。本年度の予算総額は3億1,226万2,000円で、前年度に比べ5.3%の増となっております。歳入については町債を増額し、歳出については経費の削減を図り、効率的な事業執行に努めていると認められます。

厳しい財政状況の中ではありますが、さらなる創意工夫を重ね、経費削減を図り、面的整備においても効率的な事業推進を図られるよう期待しております。

また、施行に際しては説明会を開催し、受益者のご理解、ご協力をいただき、さらに効率的な事業執行に努めるよう要望し、本案に賛成いたします。

○立沢稔夫議長 ほかに討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 討論を終結します。

これより議案第28号 平成25年度呂楽町下水道事業特別会計予算を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立全員〕

○立沢稔夫議長 起立全員。

よって、議案第28号は原案のとおり可決されました。

---

◎日程第6 議案第29号 平成25年度呂楽町学校給食事業特別会計予算

○立沢稔夫議長 日程第6、議案第29号 平成25年度呂楽町学校給食事業特別会計予算を議題とします。

これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

本間恵治議員。

○14番 本間恵治議員 さきの補正予算では、雑排水、汚泥清掃くみ取り料ということで、1年間分というふうな説明の中で731万円予算を計上してあります。それが平成25年度の予算については48万3,000円ということで計上されていますけれども、私も再確認の意味で質問させていただきますが、このさきの補正予算での予算が平成25年度には盛り込まれていないというふうな経過を踏まえて、どのような予算措置なのかお伺いしておきたいと思っておりますので、よろしく願います。

○立沢稔夫議長 神山学校教育課長。

○神山 均学校教育課長 答えをいたします。

3月の補正予算につきましては、その当年度の金額のその実績で減額をさせていただきました。新年度当初予算につきましては、それらの実績を踏まえて今回精査した中で金額を計上させていただきました。

以上でございます。

○立沢稔夫議長 本間恵治議員。

○14番 本間恵治議員 そういう答弁の中では、そうすると731万円というのは、これからもかからない費用だったのか、それがかかると思って前年度並みに予算をとっていたというふうな経過の中で、これ以上は来年度についてもお金がかからないのかどうかお聞きしたいと思います。

○立沢稔夫議長 神山学校教育課長。

○神山 均学校教育課長 答えいたします。

今現在の予定では、今回の新年度当初予算、その金額を見込んでおります。

以上でございます。

○立沢稔夫議長 本間恵治議員。

○14番 本間恵治議員 新年度の当初予算では、その金額を見込んでおりますって、731万円の費用は新年度ではかからないという意味なのでしょう。だから、私が言ったのは、平成25年度ではなくて、平成26年度にはその費用がかかるような形になるのかどうか、再度お聞きしたいと思います。

○立沢稔夫議長 神山学校教育課長。

○神山 均学校教育課長 お答えいたします。

ですから、平成25年度同様の金額を予定しております。

以上でございます。

○立沢稔夫議長 本間恵治議員、まとめをお願いします。

○14番 本間恵治議員 ということは、補正で見たのは、新規に前にかかっていたからかかるだろうと思っていたのが全然かからないというふうな理解でいいのですか、これは今後も。そういう形の中で精査していたということですかね。前のは老朽化していたので、その分かかっていたというか、そういう形の中なのではないでしょうか。わかりました。

○立沢稔夫議長 ほかに質疑ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 質疑なしと認めます。

これにて質疑を終結します。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

大野貞夫議員。

〔8番 大野貞夫議員登壇〕

○8番 大野貞夫議員 議案第29号 平成25年度邑楽町学校給食事業特別会計予算についての賛成討論を行います。

平成25年度の予算総額は、2億5,040万2,000円と、前年度に比べると減額計上となりました。そのうちおよそ1億3,500万円は保護者の皆さんから大切な給食費としてお預かりするものです。

学校給食センターは、衛生管理にすぐれ、学校給食安全基準を満たした施設として整備をされ、多額の費用が投入されています。その目的と効果を十分発揮できる運営をお願いすることはもちろんですが、引き続き地産地消や食育の推進を図りながら、園児・児童・生徒のみならず、保護者の期待する安全・安心でおいしい給食を常に子供たちに提供されるよう、事業執行に当たられることを要望します。

この8月で3年目を迎える学校給食センターは、多くの関係者に協力をいただきながら、毎日およそ3,000食の給食を順調に配食していますが、厳しい財政状況の中、今後も効率的な事業運営を推進されるよう期待して、本案に賛成いたします。

○立沢稔夫議長 ほかに討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 討論を終結します。

これより議案第29号 平成25年度邑楽町学校給食事業特別会計予算を採決します。  
本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立全員〕

○立沢稔夫議長 起立全員。

よって、議案第29号は原案のとおり可決されました。

---

◎日程第7 議案第30号 平成25年度邑楽町水道事業会計予算

○立沢稔夫議長 日程第7、議案第30号 平成25年度邑楽町水道事業会計予算を議題とします。

これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 質疑なしと認めます。

これにて質疑を終結します。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

松村潤議員。

〔3番 松村 潤議員登壇〕

○3番 松村 潤議員 議案第30号 平成25年度邑楽町水道事業会計予算について、賛成討論を行います。

水道事業は、安全な水を常に安定して供給するとともに、町民の健康や生活に直接かかわる重要な事業であります。収益的収支においては、一般家庭の節水型生活様式の定着等により、水需要は年々減少している中、238万円ほどの利益を計上していることは、経営努力がうかがえます。

資本的収支においては、石綿管の改修工事や配水管布設工事に取り組んだ結果、不足額が生じ、留保資金等により補填を行っておりますが、これは効率的投資に努めた結果と認められます。

厳しい経営環境の中ではありますが、効率的な事業執行や経費の削減に努め、安定経営に向けてさらなる努力をするよう要望し、本案に賛成いたします。

○立沢稔夫議長 ほかに討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○立沢稔夫議長 これにて討論を終結します。

これより議案第30号 平成25年度邑楽町水道事業会計予算を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立全員〕

○立沢稔夫議長 起立全員。

よって、議案第30号は原案のとおり可決されました。

---

◎散会の宣告

○立沢稔夫議長 以上で本日の日程は終了しました。

あす19日は午前10時から本会議を開きます。

本日はこれにて散会いたします。

大変お疲れさまでした。

[午後 1時50分 散会]